

2003年に神戸商船大学と統合して以来、海を基軸とした研究・教育を推進してきた神戸大学。2015年には海底資源開発や探査技術を備えた高度専門人材を養成する「海洋底探査センター」を設置し、海事科学研究科附属練習船「深江丸」を活用して鹿児島沖の鬼界カルデラを探査、巨大溶岩ドームの存在を確認するなど、大きな実績を上げている。こうした強みを大学の機能強化に直結させるべくスタートしたのが「海神プロジェクト」だ。「海の神戸大学」としてのブランディングをめざし、新たな学部や研究組織を次々に立ち上げる一大構想について、海共生研究アライアンス長の巽好幸特別顧問に聞いた。



日本の海洋立国を牽引する グローバルリーダーを育成

特集1 「海の神戸大学」をめざす「海神プロジェクト」出航!

新学部
「海洋政策科学部」
(仮称)
2021年4月開設

「神戸高商」初代校長 水島 鍊也 先生 Mizushima Tetsuya



水島鍊也校長 1909(明治42)年頃



社会科学系図書館2階にある大壁画「青春」の一部



「水島鍊也先生生誕百年記念」碑
神戸大学六甲台本館前庭



「水島鍊也先生誕生之地」碑
大分県中津市水島公園

神戸大学は2年後の2022年に「創立120周年」を迎えます。そのルーツをたどれば、1902(明治35)年設置の旧制官立神戸高等商業学校(通称「神戸高商」)に遡ります。当時の神戸高商は、東京帝国大学や京都帝国大学にはまだ経済学部が設置されていなかったなかで、商学・経済学分野における日本の最高学府でした。初代校長に就任した水島鍊也先生(1864-1928)は、22年もの長きにわたり神戸高商の礎を築きます。水島校長は「本校の目的は、主として自ら大規模の商業又は外国貿易を經營すべき人物を養成するにあり」として、世界有数の国際港湾都市である神戸にふさわしく、外国語教育や海外研修に注力し、「言論の人」ではなく「実務の人」になることの重要性を説き、人格主義の教育を実践して慈父のごとき深い愛情を学生に注ぎ、世界相手に活躍できる国際的商業人の育成に努めました。水島校長を中心とする神戸高商の人間味あふれる寺子屋的な趣は、敬慕の念を込めて「葺合村塾」と呼ばれました。葺合は当時の学校所在地であり、現在は神戸市立葺合高等学校のキャンパスになっています。水島校長率いる「葺合村塾」精神の一端は、現在も神戸大学社会科学系図書館2階の大壁画「青春」に見ることができます。壁画には1名の老師と24名の青年が描かれ、作者の洋画家中山正實画伯(神戸高商卒)の説明によれば、この老師は「吾等が指導者水島先生の姿であり、いわゆる葺合村塾を象徴」しており、書物を広げる青年に向かって右手を挙げて天を指し、「地上の学問にとらはれず 天上の真理を忘れず」と教諭しているのだそうです。中山画伯曰く、「水島先生の教育の理想は『人間』を作ることにあった。…大甲台こそ永遠に水島先生の志を受けついで『人間を作る総合大学』であり美しい伝統を誇る大学であってほしい」と。神戸高商の初代校長として近代日本の商業教育に多大な功績を残した水島先生。その教育方針の根幹は、今の神戸大学にも大切に受け継がれています。

(大学文書史料室 室長補佐 野邑理栄子)

Contents

[特集1] 日本の海洋立国を牽引するグローバルリーダーを育成 03
[特集2] 神大研究ズームアップ] ネットワーク科学で社会の動きを可視化する 08
[神大生の挑戦] ゼロからの車づくりにかける思い 12
[KOBE教育] バリュースクール[V.School] 14
[キラリ神大 OG・OB] 阪神・淡路大震災から25年 16
[神大発地球] フェアトレードを通じて開発途上国の生産者を応援 18
[こんにちは! 留学生です] 中国からの留学生 20
[国際ニュース] / [留学だより] 21
[神戸大学基金だより] / [アラムナイ] 22
[Mini News] 23

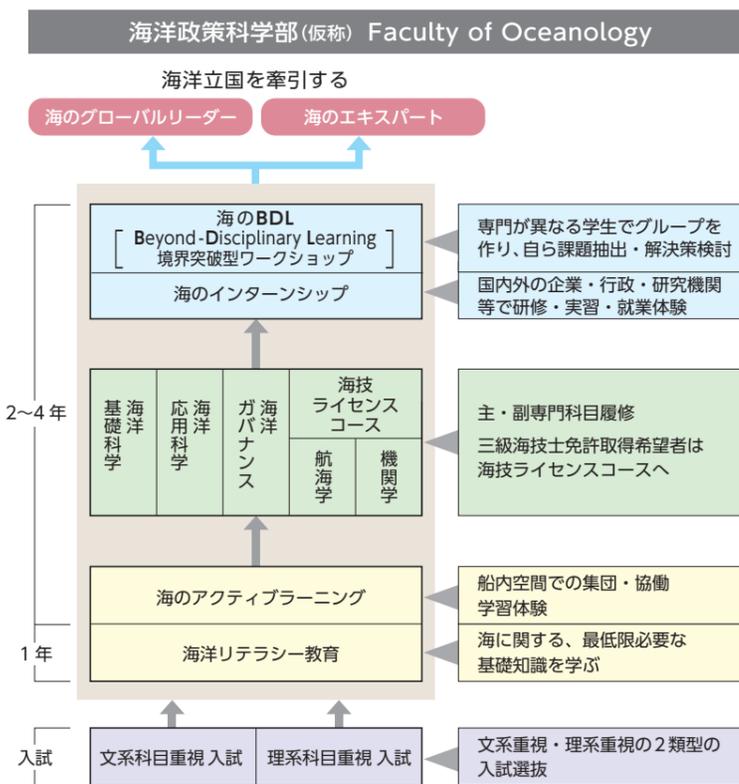
表紙写真: 水島鍊也先生胸像

神戸高商同窓会の発意により彫刻界重鎮の朝倉文夫氏が1923(大正12)年制作、1925(大正14)年10月除幕式挙行。台座銘板の揮毫は浪沢栄一氏による。



カメラ: 大亀京助

Faculty of Oceanology



海底探査も行っています。この練習船を基軸とした展開を図ることは、神戸大学の機能強化に直結します。

また、神戸大学は国際港湾都市である神戸に立地しています。国際的な物流を基盤とした海洋産業や関連ビジネス、特有の文化が育まれてきた神戸で、日本の海洋立国を牽引する研究開発と人材育成に取り組みことは、神戸大学の使命です。私たちの取り組みによって、国際海洋社会における日本のプレゼンス向上に貢献していきたいと考えています。

—— 具体的には？

教育・運用・研究の3つの柱を考えています。1つ目は新学部設置、2つ目は船の効率的運用を図る新たなセンターの設置と新船の建造、3つ目は新研究組織の設置です。

まず、現在の海事科学部に替えて、新学部「海洋政策科学部(仮称)」を設置します。新学部では、惑星・地球と生命の共進化、海洋の持続可能な開発・利用、海洋政策など、海と人間の共生に資する基礎知識と専門知識をベースに、国際海洋社会をリードする「海のグローバルリーダー」、海洋探査・開発・利用などを牽引する「海のエキスパート」、船長・機関長のみならず経営にも携わる「神大海技士」の育成を図ります。



新学部、新造船、新研究組織を立ち上げ

総合大学の強みを生かし、包括的な海洋研究・教育を推進

「海神プロジェクト」は「学理と実際の調和」の理念のもと、先端研究、文理融合研究で輝く卓越研究大学への飛躍をめざす「2015年神戸大学ビジョン」に沿って、大学の機能強化を推進する取り組みの一つだ。2021年4月に設置される新学部「海洋政策科学部(仮称)」が、プロジェクトの核となる。

「海の神戸大学」の柱となる3つの取り組み

—— 「海」を基盤とした研究と教育を推進する理由は？

2015年神戸大学ビジョンを表現する上で、神戸大学が持つ強みを生かすことが重要です。海に関して言えば、神戸大学は「練習船を有する総合大学」という国内でも希有な存在であり、海事科学研究科附属練習船「深江丸」に最新の探査装置を搭載して

識と専門知識をベースに、国際海洋社会をリードする「海のグローバルリーダー」、海洋探査・開発・利用などを牽引する「海のエキスパート」、船長・機関長のみならず経営にも携わる「神大海技士」の育成を図ります。

—— 現在の海事科学部との違いは？

日本が海洋立国として世界をリードしていくために必要な人材育成と研究開発を重視している点です。そのため、文系科目重視型と理系科目重視型の2類型の入試を行います。これまでの海事科学部では理工系に偏りがちでしたが、新学部は社会系の学生にも門戸を開いて、理系・社会系を融合した人材育成を目指します。社会科学と海洋学を融合させて海に関する課題に取り組み姿勢も、新学部の特徴です。

脱専門による広い視点と能力を養成する教育システム

—— 新学部のカリキュラムは？

入学後、まず「海洋リテラシー教育」を受講します。海と人間との関わり、海と生命との共進化といった基礎的な概念から、人類がどのように海を利用・開発してきたか、今後どのような課題に取り組むべきか、といったコンテンツを学びます。この「海洋リテ



interviewee

特別顧問
海共生研究アライアンス長

異好幸 TATSUMI Yoshiyuki

1954年、大阪府生まれ。京都大学理学部卒業、東京大学大学院理学系研究科博士後期課程修了。英マンチェスター大学研究員、京都大学大学院理学研究科教授、東京大学海洋研究所教授、海洋研究開発機構(JAMSTEC)地球内部ダイナミクス領域プログラムディレクター、神戸大学大学院理学研究科教授、神戸大学海洋探査センター長を歴任。2020年4月より特別顧問、海共生研究アライアンス長。専門はマグマ学。

「ラーニング」を提供します。専門教育においては、海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学に加えて、海技士ライセンスの取得を目指す海技ライセンスコースを設置します。学生は専門性を深める「主専門科目」と専門性を広げる「副専門科目」を選択して履修し、海洋に関する専門知識をバランスよく身につけることができます。

その上で、「海のBDL(Beyond-Disciplinary Learning: 境界突破型ワークショップ)」を受講します。できるだけ広い見地から、俯瞰した形で課題を捉え、議論と協働作業を通じて解決する能力を身につけるために、いったん専門を学んだ後、専門を異にする学生たちのグループで取り組みます。

また、産業界や実際の研究機関等での実習・就業体験を通じて専門性、応用性を高めていく「海のインターンシップ」も大きな柱の一つです。

このような教育を実施することで、海に関する自然科学系・社会科学系に対応することが求められていると認識しています。例えば、災害時の支援活動への貢献も期待されています。

新世代の高機能練習船としての運航へ向けて、急ピッチで建造が進められています。

—— 3つ目の柱である新研究組織とは？

神戸大学では2019年10月に学長直轄組織として高等研究院を設置し、その中に「海共生(ともいき)研究アライアンス」を作りました。これは、海と人間の共生を構想して、先端研究を推進しつつ、国際的プレゼンスの確立に向けた政策提言を行うことをミッションとした研究組織です。縦割りではなく完全なネットワーク型組織なので、産官学にも広く人材を求めて連携研究を進めます。また、地震・火山大国に暮らしてきた日本人の災害観の再構築を行うといったシンクタンクの機能も備えた研究組織にしたい。

まずは、発足記念シンポジウム等を通じて活動を始めます。この組織の特徴は、社会学と理科系の教員や研究者が参加して、意見を闘わせる場であること。言わば「海の梁山泊」です。そんな研鑽会を定期的開催し、脱専門的な取り組みから課題を抽出していきたいです。

系幅広い知識を持ち、グローバルな視点から社会問題の解決に資する人材、経営センスを持った高度技術者、次世代の海洋に関する政策を世界に提言できる人材の養成をめざします。

—— 深江丸の活用方法は？

これまで深江丸は海事科学研究科の附属練習船でした。それを全学附属として、「海洋教育研究基盤センター」の下に管理・運航することで、安定的かつ効率的な運用を図っています。深江丸は新学部の新海技ライセンスコースの学生に対する実習

系幅広い知識を持ち、グローバルな視点から社会問題の解決に資する人材、経営センスを持った高度技術者、次世代の海洋に関する政策を世界に提言できる人材の養成をめざします。

—— 新しい船については？

深江丸は船齢32年を数え、性能や機能の低下が顕著となってきました。新しい船は、高い安全性と長期航海に対応し、居住空間も向上されます。また、複数の探査装置を新たに搭載し、高機能練習船として建造され、機能の向上を図ります。

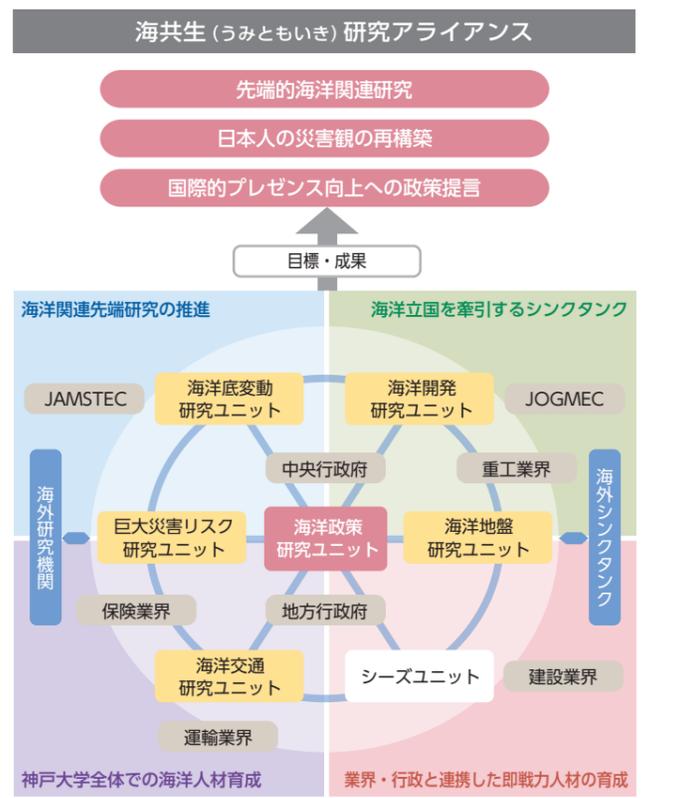
深江丸は、国立大学法人が所有する船として、さまざまな社会的ニーズ

系幅広い知識を持ち、グローバルな視点から社会問題の解決に資する人材、経営センスを持った高度技術者、次世代の海洋に関する政策を世界に提言できる人材の養成をめざします。

—— 新しい船については？

深江丸は船齢32年を数え、性能や機能の低下が顕著となってきました。新しい船は、高い安全性と長期航海に対応し、居住空間も向上されます。また、複数の探査装置を新たに搭載し、高機能練習船として建造され、機能の向上を図ります。

深江丸は、国立大学法人が所有する船として、さまざまな社会的ニーズ



「深江丸」の功績

10年計画で 鬼界カルデラを調査 「深江丸」の探査航海

神戸大学海事科学研究科附属練習船深江丸は、海技士養成にかかる教育のほか、多くの研究活動のために運航されており、現行船は3代目。学生の実習や各種実験だけでなく、他大学学生の乗船研修、一般向け公開講座、小中学生の校外学習、企業研修などに利用されています。利用例としては、海洋底探査センターの鬼界カルデラ(鹿児島)探査航海があり、2016年10月の第1回探査航海(15日間)では、鬼界カルデラの巨大マグマ溜まりのモニタリングやエアガンを使用した地層探査、マルチナロービームによる測深などが行われました。鬼界カルデラ付近の海域探査は5年~10年間継続的に実施される計画で、深江丸はこれまでに6回の探査航海を実施。世界で初めて巨大溶岩ドームの存在を確認するなど、数々の実績を上げています。2020年度も、10月に海洋底探査センターの探査航海が予定されています。



全長:49.95m/型幅:10.00m/総トン数:449トン
航行区域:近海区域(A2水域)/最大搭載人員:64名

社会の、海に関するリテラシーを少しでも高める活動ができれば。

私の子供の頃は芦屋の浜で海水浴ができた。天保山に船で出張に出かける父親を見送った記憶もあります。海と人の暮らしはもっと距離が近かった。でも今の子供たちは違います。魚や海の乗り物が好きだった子供たちもやがてゲームやスポーツ、音楽などに興味移っていきます。一方、日本は四方を海に囲まれた海洋国であり、海の重要性はこれからも減じることはありません。相対的に小さくなったとは言え、海運は今も国際物流上大きな役割を果た

していますし、海洋資源開発や海洋エネルギーの活用などはこれから注目される産業分野です。また、領海問題は国家運営にとって重要な外交課題ですし、地震や火山噴火の予知研究や海洋プラスチックの問題も持続可能な社会を作っていく上で避けて通ることはできません。こうした社会課題の解決のために「海の神戸大学」としてやるべきことは何か?海神プロジェクトではそんな問いかけに少しでも答えられる取り組みを進めていきたいと思っています。



「海神プロジェクト」ブランディングアドバイザー 岡田 一雄 OKADA Kazuo

手塚治虫氏の「海のトリトン」が 海神プロジェクトのナビゲーターに!

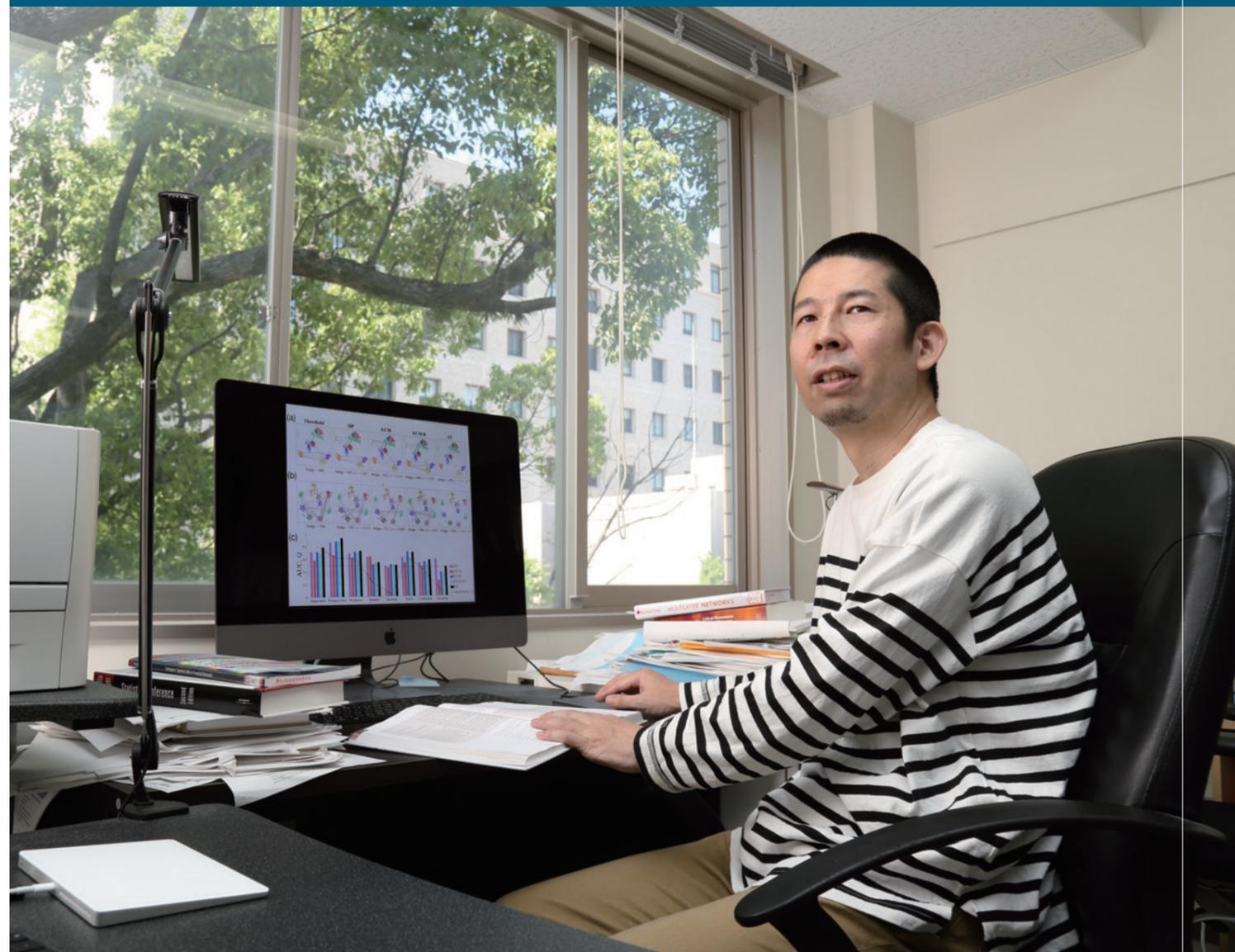
「海のトリトン」は、人間に育てられたトリトン族の末裔トリトンが、海を舞台に数々の試練や闘いを乗り越え成長していく物語です。原作では随所に、手塚治虫氏らしい文明批評や環境問題への視点が盛り込まれており、現代にも十分通じる作品となっています。

神戸大学が「海に開かれ、海を拓く」総合大学を目指して進む上でのナビゲーター(水先案内人)として、手塚治虫氏の「海のトリトン」を起用させていただきました。そこには、神戸大学もトリトンのように、さまざまな社会的課題を克服しながら前に進んでいきたいとの思いを込めています。



時間とともに変化するネットワークの新たな分析手法を開発

ネットワーク科学で 社会の動きを可視化する



interviewee

大学院経済学研究科 准教授

小林 照義

KOBAYASHI Teruyoshi

1999年名古屋大学経済学部卒業、2004年名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。中央大学経済学部専任講師・准教授を経て現職。専門はマクロ経済学、ネットワーク科学。主な研究領域は、経済学分野ではマクロ経済モデルを用いた望ましい金融政策に関する研究。近年はネットワーク科学分野のモデルや解析手法を、経済現象の分析に応用した研究を行っている。2020年には兵庫県内にゆかりのある優れた学術研究を顕彰する村尾育英会学術賞を受賞した。

親密な人間関係をデータから識別する、平たく言えば、人間の集団を観察したデータから、誰と誰が友達の関係にあるか、どれくらい親しいかを客観的に割り出す研究を、大学院経済学研究科の小林照義准教授が発表している。

小林准教授は数理的なマクロ経済モデルを用いた金融政策の分析に加え、ネットワーク科学を研究領域としている。ネットワーク科学とは、現実世界で起きている現象の背後にある関係構造を把握することで、その現象のメカニズムを解明する学問だ。人と人とのつながりをネットワークとして捉え、そのデータから親密な人間関係を識別する研究は、時間の経過とともに変化する動的ネットワークを分析できる手法を開発した点で注目された。人間の親密さを識別する研究と金融市場の分析がどう結びつくなか、小林准教授に聞いた。

ネットワークは世の中を理解する手段

—— ネットワーク科学とは？

「六次の隔たり」という言葉をご存知ですか？知人の知人といった関係を6人辿っていくと、世界中の誰にでもつながるといふ有名な仮説です。一見、不可能ですが可能なわけで、とても不思議じゃないですか。そんな人と人とのつながりを、点と点（ノード）を線（リンク）で結ぶネットワークとして考えると、非常に簡単なモデルで説明できる。そんな論文が1998年に発表され、ネットワークは世の中を理解する上で重要だという認識が高まりました。

同じ頃、WEBサイトをノードとし、それらのURLを結ぶリンクを辿ることで、ワールド・ワイド・ウェブの全貌が明らかになりました。個々のWEBサイトが持つリンクの数（次数）の分布を取ると、きれいな統計的な分布が現れたのです。誰もがネットワーク全体の構造など考えずに勝手にリンクを張っているのに、全体で見るときれいな分布が出る。そしてその分布は、統計物理学においてよく現れる「べき分布」と等しかったのです。航空網における空港間のネットワークも同様の性質を示しますし、経済学の分野

でも同じ分布が出てくる現象はよく見られます。

つまり、社会や経済、自然のシステムは、それぞれ異なるメカニズムで動いていると思われていたけれど、マクロ的に見ると共通の特徴が見られることがわかってきた。そこからネットワーク科学はいろいろな分野の研究者を巻き込んで発展してきています。

—— 先生とネットワーク科学の出会い

私は10年ほど前まで、金融政策、特にマクロ経済学の理論的なモデルを研究していました。しかし、2008年のリーマン・ショックに起因する世界規模の連鎖的な金融危機という現象を、従来のモデルでは説明できなくなり、別のアプローチとしてネットワーク科学に着目しました。ネットワーク科学では物事をネットワークとして考え、その中で起こる現象のメカニズムを数理的に考える。それなら金融市場をネットワークとして表すことができれば、リーマン・ショックの波及を詳細に分析できると考えたのです。

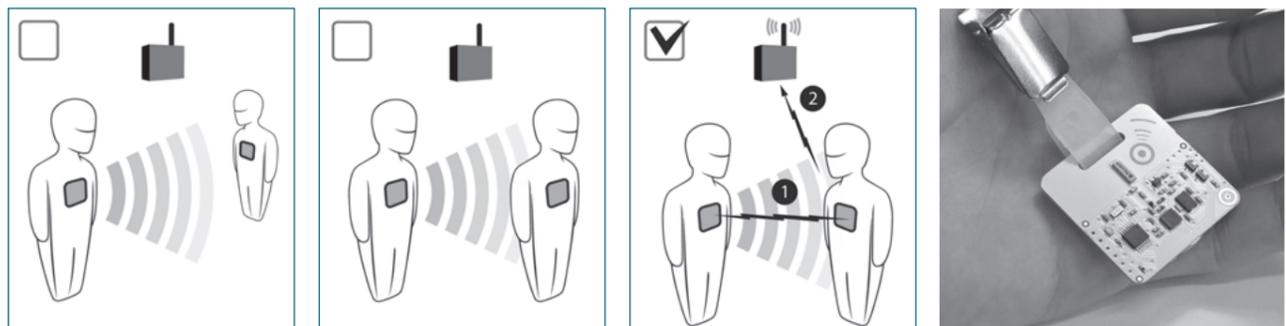
金融市場では銀行がノードで、銀行間では毎日お金の貸し借りが発生するので、貸し手から借り手に線（リンク）がつながり、ネットワークが毎日できます。それを解析しているうち

に、人間同士のコミュニケーションのネットワークとの共通性が明らかになってきました。銀行という人の集団（企業）の行動と個人の行動パターンを比較すると、多くの類似点が見られたのです。個人のネットワークに関しては、人々にウェアラブルセンサというデバイスを身につけてもらって接触記録を取り、それを分析することができず（下図参照）。

動的ネットワークを分析する新手法

—— どのように比較する？

会話には「誰と話すか」「どれくらいの時間話すか」、そして次の人に「いつ話しかけるか」という意思決定が必要になります。会話をするペアがたくさんいれば、会話の持続時間と次の相手と会話をするまでの間隔の分布が取れます。その分布を見ると、「どれくらいの時間話すか」という持続分布が、銀行が同じ取引相手と何日間続けて取引するのと同じ持続分布と全く同じ形になりました。また、「次の人にいつ話しかけるか」という間隔分布は、銀行がある銀行との取引を停止してから再開するまでの間隔分布と同じになりました。つまり、個人間の会話も銀行間の取引も、意思決定においては全く相似形にあることが初めてわかったわけです。

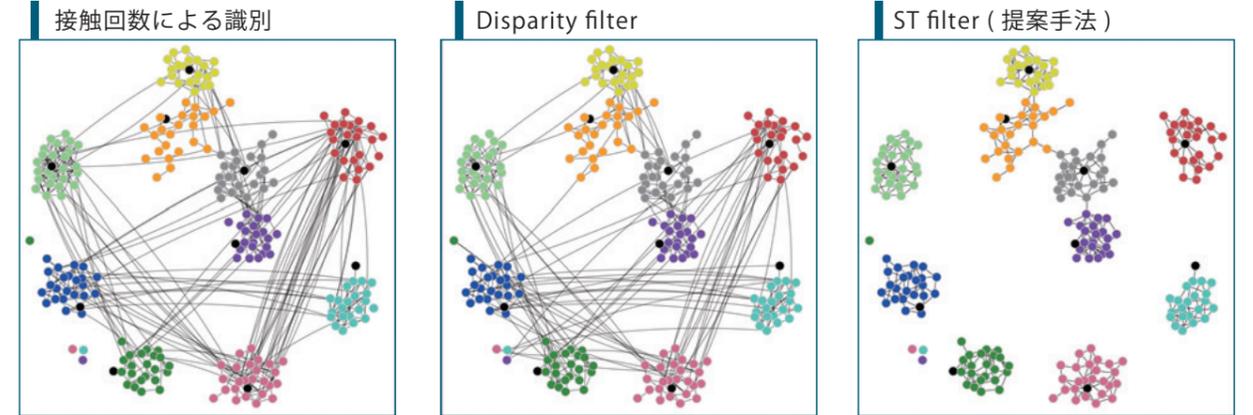


接触データの記録イメージ。二者の距離が遠い場合（左図）や正対していない場合（中央図）は記録されず、約1m以内で正対した場合のみ機器に記録される（右図）。
出典：Cattuto et al. PLOS ONE 5, e11596 (2010)

ウェアラブルセンサ © Socio Patterns

ネットワークの動的な性質を明らかにする

動的ネットワークの中で安定的な二者関係を客観的に識別



小林先生の研究グループは、調査対象となるペアが潜在的に持つ活動量をデータから推計し、無作為に相手を選んだ場合の接触回数を計算。その上で、各ペアが現実接触した回数を調べ、その回数が無作為に相手を選んだときに起こりえないほど多ければ、関係が親密と判断した。上の図は、フランスの小学校における会話ネットワークに応用した

結果。各点は生徒、その色は所属するクラス(黒点は教師)、黒線は親密な二者関係を示す。接触回数だけで判断する従来の考え方(左の図)では、クラス外にも親密なペアが多数存在するように見えるが、各ペアが潜在的に持つ活動量を考慮する小林先生のフィルタリング(右の図)によると、親密なペアは同じクラス内で多数発見された。友達関係は、やはりクラスごとの集団として表れてくることが客観的に示された。

の取引を1000回行う関係性と、大企業が100万円を1000回取引した場合では、取引額は小さくても前者の方が関係性は強いかもしれませんよね。だから、友達かどうか、お得意様かどうかを判断する上では、各個人、各企業が持っている潜在的な活動量を考慮しなければなりません。大企業は潜在的な活動量が高いので、そこは割り引いて考える必要があります。

小学生の人間関係で言えば、非常に社交的な子が1日に50人と話すことは確率的に起こり得ます。でも、非常に寡黙な子が、特定の子と1日に3分話したとなれば、そこに特別な関係性があると判断できます。各個人が持っている本来の活動量を考慮することで、絶対的な会話時間によらない関係性を検出できるわけです(10ページの図参照)。

——この研究は高く評価されました。これまでもネットワーク上の重要なリンクを抽出する研究はありましたが、固定された、ある時点のネットワークが対象でした。私たちの研究は、動的に、時間とともに変わっていくネットワークにおいて友達関係を抽出する方法(フィルタリング)を開発した点が新しく、そこが評価されたのかなと思います。動的な性質を明らかにすることは、ネットワーク科学の重要な課題になっています。

——他の分野にも応用が利く? 動的に移り変わるネットワークのデータがあれば適用できます。例えば、学校内の友人ネットワークを客観的に把握して、いじめを検知したり、いじめの予兆を観察できる可能性はあるでしょう。また、金融市場の取引関係のモニタリングや、家畜の群れの管理に応用することも可能だと思えます。

コロナ下の行動制限を回避できる可能性

——アフターコロナの世界経済に対して、ネットワーク科学の領域から、どのようなアプローチが可能でしょうか?

実際に今、たくさんの方々のネットワークが予測されるシミュレーションを行っています。人と人がどうつながり、どう動いたかを数理モデルを使って予測し、「この程度の行動制限を課せば、これくらい感染拡大を抑えられる」といった判断に生かしています。

しかし、人々がこういう行動をしたら、これくらい感染が広がるというところは数理モデルから予測できても、今のネットワーク科学では、何らかのシヨックがあった場合に人々の行動がどう変わるかはわからない。例えば、コロナ発生というシヨックを受けて、



——個人の会話にはいろいろな動機がありますが、銀行の取引は純粋に利潤の追求が目的です。目的が違うのに相似形になると?

そこが不思議なところなんです。私が分析したイタリアの銀行間市場のデータでは、300もの銀行があるのに、同じ1つの銀行と100日以上も連続で取引をしているケースが多い。ランダムに取引相手を選んでいいるのなら、300分の1の相手と100日以上も取引が続くことは確率から言えばあり得ない。ということは、その相手と何かしら関係が続けることに銀行は価値を見出している。それを理解する上で人間関係における意思決定がヒントになります。

そこで、人間のソーシャル・ネットワークを研究するために、フランス

の小学校における生徒たちの会話ネットワークのモデル化に取り組みました。ウェアラブルセンサーで誰と誰が会話したかを記録し、生徒間の親密さの度合いを、データから客観的に識別する研究です。その際に重要なポイントには、各個人が潜在的に持つ活動量の違いを考慮することです。

——潜在的に持つ活動量とは?

まず、人間関係で言えば友達、企業関係で言えばお得意様といった「親密さ」を、科学的にどう定義するかという問題があります。従来は単純に、接触回数が多ければ友達とみなし、取引回数や金額が多い相手をお得意様と考えていましたが、この見方には問題があります。大企業なら自然に取引回数は多くなり、取引額も大きくなりやすから。仮に、小さな会社が1万円

人々は自発的に家に引きこもったり、外出を抑えたりしますよね。その結果、人と人とのつながりのネットワークは形が大きく変わりますが、その形が自発的にどう変わるのか、つまり、シヨックに対してどの程度反応するかはわかっていない。そうした人々の行動変容のメカニズムを理解した上で感染の予測や対策ができれば、政府が国民に行動制限を課す必要性を、より厳密に判断できるでしょう。

——コロナ下でも緊急事態宣言を出さずに済む場合もありうる? その可能性もあるでしょう。今回、国が人との接触を80%抑える要請を出しましたが、もし人々が自発的にそれだけの行動を抑えることがデータからわかっていけば、要請を出す必要はなくなり、経済活動を一齐に止めるような事態も回避できるわけです。

——今後、先生がその研究を? 進めたいのですが、倫理的な問題があつて実験が難しいんです。まさか人の集まりの中にウイルス感染者を入れて、全員がどう反応するかを見るなんて実験はできませんからね。社会性昆虫であるアリを対象にした実験を行う研究者もいて、一つの可能性を感じますが、やはり人間の社会レベルで理解しなければなりません。実験は非常に困難ですが、何らかの方法を考えて研究を進めていきたいと思っています。

Topics

小林照義准教授が「第37回 村尾育英会学術賞」末石直也教授が「同学術奨励賞」を受賞しました。



経済学研究科の小林照義准教授が第37回村尾育英会学術賞、末石直也教授が同学術奨励賞をそれぞれ受賞し、2020年3月7日に授賞式が行われました。この賞は、「神戸ないし兵庫にゆかりのある研究」または「兵庫県内の研究機関に所属する研究者の研究」を対象に、毎年選考を経て表彰されるものです。小林准教授の受賞テーマは「社会・経済ネット

ワークの動的解析」で、銀行間取引データの解析や、銀行破綻が金融取引のネットワークを通じて大域的な連鎖に発展するメカニズムを理論的に示した研究などが評価されました。末石教授の受賞対象となった研究テーマは「モメント制約モデルの効率性限界の分析」で、分布関数を特定化しない条件の下での統計的モデルの効率的な推定方法に関する業績が評価されました。

神大生の挑戦

さらなる高みを目指して ゼロからの車づくりにかかる思い

神戸大学学生フォーミュラチーム・FORTEK
工学部 機械工学科 3年

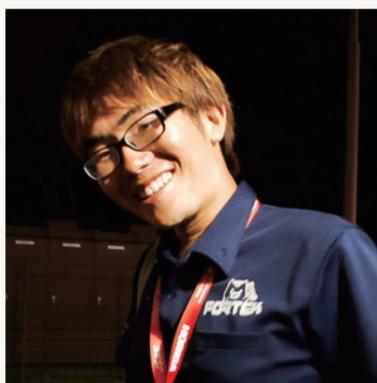
黒谷 一真

KUROTANI Kazuma



安さや、市場への売り込み方、設計が評価されます。
この7つの競技の点数の合計点で競います。
—— 普段はどのような活動をされているのでしょうか？
僕たちのチームでは、マシンを設計、製作、走行の3段階に分けています。大会の終わった9月から年末にかけて設計をし、そして製作、走行へと入っていきます。設計では、そもそもどんなマシンをつくるのか話し合っ決めていきます。そして、設計したマシンを、設備のある製作場などで作り上げます。作り上げたマシンを大会の前に広い会場で走らせ、走行練習を行います。これを約1年を通して行っています。
—— 苦しかった経験はありますか？
たくさんあります。その中でも一番は、シミュレーションがうまくいかなかったときです。実際に走らせたときに、部品が壊れたり、変形し過ぎたりしないようにシミュレーションをするのですが、繰り返し行っていると想定していなかったところが壊れてしまう。失敗した初期段階で原因に目処をたてても、ほとんど他にも失敗したところが出てきて、問題点を突き詰め通した

後にも失敗する。原因が分からなくなると、ずっと探し続ける作業はしんどいです。
—— 苦しい中でやりがいは何でしょうか？
ゼロからつくった車が実際に走るときに、一番やりがいを感じます。自分たちが設計し、シミュレーションを何十回、何百回として、たくさん失敗をして、けっこう心が折れるんです。心が折れてもやり切った先に、うまく走ったとき、本当に喜びを感じます。
—— モノづくりを志す人へのメッセージをお願いします。
大学は、今までで一番自由で、部活動も自由な活動ができます。モノづくりに関して言えば、高校までは用意されたもの



神戸大学学生フォーミュラチーム FORTEKは、毎年9月に行われる学生フォーミュラ日本大会で、昨年全国総合5位、特別賞を受賞した。小型レーシングカーをゼロから設計し、実際に走るようになるまで、何度も試行錯誤を繰り返す。車づくり、モノづくりにかける思いを、代表の黒谷一真さんに聞いた。

—— 学生フォーミュラとは？

学生たちで小型レーシングカーを設計・開発して、それを毎年9月に行われる大会で競わせるものです。大会の趣旨としては、学生自らがチームを組んで、1年間でフォーミュラスタイルと呼ばれるマシンをつくり、その設計・開発を通して、学生自身がモノづくりの喜びや厳しき、面白さを学ぶものになっています。

—— 学生フォーミュラ日本大会では、どのような競技が行われるのでしょうか？

大会の中には、動的審査と静的審査という二つの審査があります。動的審査はマシンの性能を競うもので、アクセラレーション、スキッドパッド、オートクロス、エンデュランスという4種の競技があります。これらは実際に車を操縦して、タイムや耐久性、燃費を競うものになっています。二直線のコースを進んだり、8の字のコーナーを回ったり、テレビでよく見るような車の動きをします。静的審査では、コスト、プレゼンテーション、デザインの3つで競います。マシン生産にかかるコストの

を作ることしかできなかったけれど、大学ではゼロから作ることができます。学生フォーミュラチームももちろんそうです。でも、そんな風に自由でゼロからモノづくりができるのは、実は大学生のうちだけだと思っんです。いざ会社に入ると、会社の方針やさまざまなものに縛られて、制限されたモノづくりになると思います。だから、この大学という場所は、仲間たちと自由に、没頭してモノづくりができる、有意義な時間を過ごせる貴重な場だと思います。モノづくりに興味があって、やりがいを感じたい方には、是非入ってほしいなと思います。

—— 今後の目標は？

全国1位をとる事です。コロナの影響による活動自粛期間で実作業ができないなか、チームメイトとの話題は、やっぱり1位をとりたい、ということ。今まで6位以上(入賞)を目標に頑張ってきて、ついに去年総合5位に入れたんです。やっと1位が近くに見えてきたので、目標は全国総合1位です。



■ インタビュー学生広報チーム
大垣 萌 OHGAKI Moe
文学部人文学科1年



思索と創造のワンダーランド — 価値創造の世界的拠点として — 神戸大学 バリユースクール「V.School」

2020年4月に設置された神戸大学バリユースクール(V.School)は、既存のシーズ・ニーズを超えた潜在的な「希望や期待」を探り、具体化し、価値創造する人材を育成することを目指す。独立した組織ではなく、学部・研究科の枠を超えて自由に学生が参加する全学横断組織として、本学の有する文理融合の伝統を最大限発揮するV.Schoolの狙いや特色について、スクール長の國部克彦副学長に聞きました。

— 神戸大学にV.Schoolを設置した経緯は？

社会を活性化するために、イノベーションを起こし、新しい価値を創造していくような人材が強く求められるようになってきているにもかかわらず、大学がそのような期待に応えていないと言われてきました。その一つの原因に、教育がほとんど専門に特化するようになったことがあります。V.Schoolは、価値創造という観点から、学部や研究科の枠を取り払って、様々な学問分野に横ぐしを通すことによって、知の活性化を目指して創設されました。

— V.Schoolの特色を教えてください。

V.Schoolは、「思索と創造のワンダーランド」をキャッチフレーズとして、教員も学生も何の制約もなく、教育や研究プロジェクトに取り込めるように工夫しています。授業も単位制ではないので、学則に縛られることなく自由に設計でき、学生の皆さんも完全な自由意思で参加しています。協力しなくて済む教員の方の多くも自由意思です。また、社会的な価値創造のために、企業や自治体と協力して複数の価値創造プロジェクトも立ち上げる予定にしています。このような活動を通じて、入校された学生には、高度な専門性に対応した新しい「教養」としての価値創造能力を、身につけてほしいと願っています。

— どのような授業でしょうか？

価値創造とは？
V.Schoolでは、「価値創造＝価値創発×価値設計」という公式(実際には6つの要素に分かれる円環図)で価値創造の教育プログラムを設計しています。「価値創発」とは、当初は想像もしなかった価値を発見することで、「価値設計」とはそのような価値を社

会に実装するまでを考えると、授業は、3人の教員が鼎談する「価値創造サロン」をはじめ、「価値創造と創発」および「価値創造と設計」という講義科目、そして価値創発と価値設計に関するPB(課題解決型学習)が中心です。これに、学内外の教員・講師による関連科目が加わります。なお、V.Schoolには、価値創発部門と価値設計部門があって、それぞれシステム情報学研究所の玉置久教授と経営学研究所/科学技術イノベーション研究科の忽那憲治教授が部門長に就いています。

— 授業での学生の様子は？

現在(6月1日時点)、V.Schoolの在校生は59名で、学部生が46名、大学



院生が13名です。9学部7研究科から参加があります。当初の想定に近い人数が集まり、V.Schoolの取り組みが、学生のニーズに適合していたことを示しています。入校生とはチームコミュニケーションツール Slack(スラック)を通じて議論する場も設けていて、講義の場だけでなく、継続的に価値創造について議論できるようにしています。Slackでは教員同士の議論に熱がこもることもありますが、学生も参加して非常にレベルの高い議論が交わられています。V.Schoolは単位制に縛られることがないので、学生は完全に自由に学習したり、プロジェクトを企画したりすることができ、その意味で教育の原点に立ち返っていると言えると思います。



副学長 國部 克彦
KOKUBU Katsuhiko

1962年生まれ。大阪市立大学助教等を経て、1995年神戸大学経営学部助教授、2001年同大学経営学研究所教授、2014-16年経営学研究所長・経営学部長、2019年副学長、2020年バリユースクール長に就任。主著に、『創発型責任経営』(日本経済新聞出版社)、『アカウンタビリティから経営倫理へ』(有斐閣)など多数。

— どのような学生に来てほしいですか？

既存の枠組みでは満足できない学生に来てほしいです。最近「同調圧力」を気にする学生が多いですが、価値創造に同調性は無用です。むしろ、これまで誰も考えてこなかったようなことを考えてみたいとか、それを実現したいというような「野望」を持った学生に来てほしいです。そして、そのような「野望」をV.SchoolのPBLやプロジェクトで少しでも実現することができるなら、それがさらに大きな社会的な価値につながると思います。コロナ禍の今こそこのような現状打破の発想が必要です。V.Schoolは企業にも法人会員という形で門戸を開いていますので、企業の方も積極的に関与していただきたいです。

— 今後の展開について

社会や世界への発信を強めていきたいと思っています。V.Schoolに対する社会からの期待は大きいものがありますので、その期待に具体的なプロジェクトで応えていきたいと思っています。また、世界的なレベルで活動している Creating Value Alliance(連携)神戸大学を価値創造の世界的拠点に育てたいと考えています。なお、日本M&Aセンターの三宅卓社長より多額の寄付をいただき、神戸大学120周年になる2022年を目途に新校舎の建設も計画していますので、教職員、学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

Voice



経営学研究科経営学専攻 博士課程後期課程 1年
久保 雄一郎 KUBO Yuichiro

私は、東京2020大会に向け、地方創生のツールとしてスポーツが社会経済に与える影響を学んできました。1年半をかけ、事前キャンプで来日するアスリートの体調サポート、誘致地の産業、東京大会の特徴をまとめた実践的な手帳を企画し、完成を見ました。しかし、今般の新型コロナウイルス感染症の流行から、東京大会は延期、現時点で次の展開には至っていません。ゴール設定をして準備しても成功しないという経験を、実践への応用を模索していた時、「V.School」の存在を知りました。このスクールでは「価値創造」に向け、まず「価値創発」が交流の場として設けられていて、各専門分野を代表する先生方の豊富な知見から多くの学びを得られます。社会実装する「価値設計」では、価値創造を実践できる人材(企業家)育成のための体系的なプログラムが受講できます。これらの概念から私の研究活動を省みた時、変化する現実社会に、柔軟かつ敏速に対応するための検証、分析が不十分だった事や、新たなニーズを模索し、様々な展開を想定して順応する視点の必要性に気づきました。歴史ある国立大学でありながら、先進的な環境を兼ね備える神戸大学で学べることに、心から至福を感じています。今後、感染症禍中、および収束後におけるスポーツ経済復興をアシスト可能な手帳の完成を目指します。



海事科学部 マリンエンジニアリング学科 メカトロニクスコース 3年
杉浦 愛未 SUGIURA Ami

V.Schoolでは「いかに盗めるか」これがキーだと思っています。盗むのは「先生方の思考の仕方」です。通常授業では学生が能動的に活動できたとしても、先生方の議論を拝見できる機会は少ないと思われます。この両方が実現可能な場がV.Schoolです。通常授業で学ぶ専門分野を習得するには一見無関係な視点で捉えることも必要ではないか、という考えが、私の入校動機の1つでした。この動機が見透かされたかの如く、本校では多分野の先生方が各分野の視点から説明していただき、講義中に頭をフル回転させた上でその後も十分に思考せねば真に理解できたとはいえないほど、多様な視点で捉えることが求められています。

「問うことは思索の敬虔さである」これはハイテグガーの言葉で、V.School長の國部先生が講義内で紹介してくださった言葉です。先生は「問うことが何故敬虔さなのか。それは問うことで新しい世界の扉を開けることができるからだ」と仰っていました。「問う」これは厳密な思考を反復したうえででの行為です。ではその厳密な思考を生み出すものは何か。それもまた思考です。

先生方の思考を享受し多面的に捉えることで課題解決に貢献できるような人材になり、V.Schoolの価値を高めたいと思っています。





神戸ハーバーランドumie モザイクに出店！

PEPUPのメンバーは民族衣装に身を包んで、新オリジナル商品のたんぼぼコーヒーを筆頭に、大人気のドライパイナップル、ドライマンゴー、カラマンシージュースなどを販売しました。

フェアトレードを通じて 開発途上国の生産者を応援

したものを仕入れて、自分たちでデザインしたパッケージで販売しています。

—— **活動資金はどこから？** ——

種村 商品の仕入れについては、これまでの販売利益の範囲内で、概ねプラスマイナス0に収まるよう調整しながら進めています。

—— **毎年、現地に足を運ぶ？** ——

菊本 基本的に春夏2回出かけます。目的は、生産者に直接会って意見を聞くこと。フェアトレードの必要性と意義を認識できる、貴重な経験になります。

—— **フィリピンの生産者は正当な利益を得られていない？** ——

菊本 はい。フィリピンではスペインの植民地時代から地主の搾取が顕著で、小規模農家は地主から土地を借りて作物を育てるもの、地代も含め、収穫物の大半を地主に渡さなければなりません。

種村 また、ランドローバーという階層の人々も農家に土地を使わせて、強制的に作物を徴収しています。彼らの中には農家の土地を買収して、強引に地主関係を作り出す人もいます。さらに、仲介人の存在も問題です。フィリピンでは大量かつ安定的に輸出できる商品は、プランテーションが供給しています。その価格競争力は非常に高いので、小規模農家は自分たちの商品を買売しづらい。そこに仲介人が現れて、弱い立場にある小規模農家から不当に安い値段で無理矢理商品を買付けける。そういう形で農家が搾取されるという構造的な問題があるんです。

神戸大学の学生主導で国際協力活動を行う国際協力 NGO「PEPUP」(ペパップ)。「PEPUP」は Peoples' Empowerment Partnership Upon Peace つまり「平和と自立のためのパートナーシップ」を意味し、「よりよい社会を、トモに。」というビジョンを掲げてさまざまな活動を展開中。合同学習会など他大学や他団体との交流も積極的に行っている。なかでも、フィリピンを中心に取り組んでいるというフェアトレード活動について、メンバーの種村尚大さん(共同代表・同志社大学2年)と菊本心太郎さん(会計・理学部数学科2年)に聞いた。



小規模農家で飼われる役用水牛カラバオと記念写真



ホームステイ先の子供達と過ごす



現地の海でメンバーとの集合写真



フィリピン NGO に対してのプレゼン風景



スタディツアー参加の皆さまと

—— **そこで、皆さんは小規模農家を支援？** ——

種村 支援という以前に、小規模農家の作る農産物は、プランテーションの作物と比べて、品質が圧倒的に高いんです。僕たちは単純に、その価値を伝え、正当な対価を得られる販路を確立したいんです。

菊本 対等な立場で協力して、お互いにメリットを出していきたいという考え方を、メンバー全員で共有しています。

—— **販売はどのように？** ——

種村 学園祭や国際協力に関するセミナーなどの会場、神戸のモザイク(商業施設で開かれるマルシェなどで販売しています。販売機会は年に10〜20回ほどですが、安定的に商品を購入するためには、継続的に販売できる場が必要です。また、フィリピンのある植物に関するプロジェクトも進めています。その植物には水質浄化、殺菌、抗菌に役立つ機能があるので、機能的な素材として商品化し、日本の養殖業者や畜産農家に販売する計画です。機能的性を証明するために、神戸大学の研究者はもちろんです、その植物に関する論文を発表している研究機関にも連絡を取っています。

—— **成功を祈ります。今後の目標は？** ——

種村 フィリピンの生産者が生み出す価値が正しく評価される販路機会を提供できるよう、引き続きがんばります。

菊本 フェアトレードを通じて、フィリピンの生産者が価格設定の議論に参加できるように支援したい。ペパップには留学生も含め個人的なメンバーが多いので、興味のある方はぜひ参加してください。

—— **ペパップはどんな活動を？** ——

種村 国際協力を軸にしながら、今はフェアトレードを中心に活動しています。メンバーは現在13人で、「発信、実践、学習」の3つの柱で活動を表現しています。「発信」の面では、SNSで情報発信をしつつ、神戸市内の高校に出席して、国際協力活動に関する出張授業を行っています。「実践」に当たる活動がフェアトレードで、商品を実際に輸入し、日本で販売しています。「学習」の面では、毎週オンライン学習会を開いています。

—— **フェアトレードとは？** ——

種村 開発途上国で作られた作物や製品を、その価値に見合った適正な価格と対等な条件で取引することによって、生産者の生活向上をサポートする活動です。例えば、生産者が不当な低賃金を強いられたり、児童労働が発生したりする状況を是正することが、フェアトレードの一つの目的になります。ペパップの場合は、長年連携しているフィリピンの NGOと一緒に活動しています。その NGO は、フィリピン各地の農村共同体と連携してフェアトレードを行っています。

菊本 ペパップの顧問的な存在である人間環境学研究所・国際人間科学部の太田和宏教授が、学生時代からフィリピンと関わりをお持ちで、僕たちもつながりを維持しています。

—— **現在の取扱商品は？** ——

菊本 ドライパイナップルとたんぼぼコーヒーをメインに、雑貨もいろいろと。

種村 たんぼぼコーヒーはミャンマーの製品です。ペパップのOBがミャンマーで商品化

中国人留学生・卒業生からマスクが寄贈されました

新型コロナウイルス感染症蔓延への対応として、日本で緊急事態宣言が発令されたことを報道で知った、本学の卒業生である上海在住の宋小華さん（自然科学研究科・2002年修了）が、母校へのマスク寄贈のための寄附を中国の同窓生に呼びかけ、4月と5月の2度にわたりマスクが調達され、本学に寄贈されました。寄贈されたマスクは、合計6万5千枚（1回目：2万5千枚、2回目：4万枚）にも及びます。

寄贈されたマスクは、上海吉祥航空有限公司に勤める周麗さん（法学研究科・2015年修了）の計らいで、同社の協力によって関西国際空港まで空輸されま

した。空港からは、陳林さん（神戸大学留学生西日本同窓会会長／自然科学研究科・2005年修了）をはじめとする関西に在住する同窓生によって本学国際教育総合センターまで運ばれ、吉井昌彦国際担当理事や河合成雄国際教育総合センター長らが、教職員を代表して受領しました。

寄贈されたマスクは、医学部附属病院を主として、本学教職員で大切に使用させていただきました。日本国内においてマスクの需要が急激に上昇し、品薄状態が継続する中、本学のマスク在庫が残り少なくなっており、必要な量を確保することが困難だった状況にあって、この度のご支援はとてありがたいものでした。

感染症による被害を受けた中国国内の状況が未だ落ち着いた時に、マスクの調達から本学への運搬に至るまで、多大な温かいご支援をいただき、教職員一同、心より感謝申し上げます。



ピッツバーグ大学「学びの聖堂」



Workaway 先のご家族と

1年間の留学生活では楽しいことばかりではなく、英語が分からず苦しい、ホームシックになったり、辛いことや悩ましいことも沢山ありました。ただそれらを乗り越えてこそ見える景色があり、これらの苦労や悩みに時間をかけてじっくり向き合えるのは交換留学ならではの魅力であると思います。海外留学に興味のある方は、留学フェアなどに足を運んで、ぜひ交換留学も検討してみてください。

私はアメリカ合衆国ペンシルベニア州のピッツバーグ大学で、1年間の交換留学をしました。小さい頃から留学に憧れていたけれど、交換留学を真剣に考え始めたのは大学に入ってからです。交換留学なら、比較的長い期間を現地で暮らし、勉強するなかで様々なことを経験できると考え、特に専攻のアメリカ史を深く学びたいという理由からピッツバーグ大学を選びました。

大学では現地の学生に混じって、歴史の授業を履修しました。英語での授業や討論にはついていけなくても、苦勞でしたが、日本人とは異なる視点や価値観をもつ現地学生と一緒に学ぶことは新鮮で、様々な気づきや発見がありました。また、4ヶ月間ほどの夏休みには、work way に挑戦しました。これは現地の家庭に住み込みで働くというもので、私は田舎の農場で家屋の修理や家畜の世話のお手伝いなどをして過ごしました。家族と一緒に生活するなかで、地元の人々と触れあったり、地域のパーティーに参加したりと、大学内での生活とはまた違った貴重な体験ができました。

国際文化学部 国際文化学科4年 丸岡 康之 MARUKA Yasuyuki

留学だより

現地で学ぶおもしろさ 神戸の街並みを建築の視点から

神戸大学に来る前はどんなことを？

高校を卒業した後は、上海の外国語大学に入って一年間日本語を勉強しました。それから日本に来て、半年間日本語学校で勉強しながら、日本のいろいろな場所を見学しました。近畿圏の日本らしい雰囲気や古い建物が好きで、大阪や京都、奈良、もちろん神戸も見学しましたし、東京にも一度行きました。神戸に遊びに来たときは、街並みがすごくきれいだなと思い、この都市が好きになりました。中華街にも行きましたが、本場とは少し違いますね。

現在はどんな研究をされているんですか？

卒業研究はまだ始めていないので、4年生の設計課題をしています。今の課題は、三宮地区の街並みの改造です。あまり良くない点や、問題になっている点を発見して、建築的な視点から改善案を考えています。例えば、神戸は日本では観光地としてかなり人気だと思いますが、中国や韓国など海外の旅行者の視点から見ると、大阪や京都と比べてそれほど人気ではないというのが現実です。そこで、どうやって神戸の街並みを改善して、外国人観光者を引き入れるかというのを研究しています。

薛さん自身は、神戸の街並みでお気に入りのスポットはありますか？

ハーバーランドや元町、北野異人館のあたりが好きです。建築の視点から見ると街並みはかなりきれいだし、個人的には海が好きなので、ハーバーランドの海沿いを散歩して海風を感じるのが大好きです。最近はコロナの影響であまり行けていませんが、前は週に一回くらい友達と散歩したり、カフェに行ったりしていました。

今後の目標は？

神戸大学を卒業した後は、さらに欧米に留学したいと考えています。建築というのは、流派があるじゃないですか。日本のスタイルとヨーロッパのスタイルは全然違って、私はその両方のスタイルを学ぶため、現地の大学院に入って勉強したいと思っています。今は大学院に出願するためのポートフォリオを作っているところです。

私は建築の、自分の手で模型を作ったり図面を作ったりして、想像力を発揮できるところに面白さを感じます。より深く建築を学ぶため、その土地で学ぶことを目指しています。



旅先のイギリスのバースにて



制作した建築模型



故郷(無錫市南長街)

世界各国から来た約1400人の留学生が神戸大学で学んでいます。このコーナーでは、母国の文化や習慣などの話を交えながら、国境を越えて頑張っている留学生にスポットを当てます。

こんにちは！ 留学生です



薛 嘉杰 Setsu Kaketsu

工学部建築学科4年
中国の江蘇省出身。高校ではバスケットボールチームに所属し、学校の試合にも出場。映画や音楽鑑賞が趣味で、自分でベースを弾くことも。授業や課題に忙しいながらも充実した日々を送っている。



中華人民共和国

江蘇省は中国東部の黄海に面した省で、省都は南京市。出身の無錫市は兵庫県明石市の友好都市。演歌歌手・尾形大作の『無錫旅情』(1986)がヒットし、80年代後半には日本人観光客が増加した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学位記授与式、入学式を中止 動画で学長メッセージを配信



新型コロナウイルス感染症が国内で拡大している現況に鑑み、予定していた令和元年度学位記授与式、令和2年度入学式の挙行を中止することにいたしました。

式典に代わり、令和元年度の卒業生、修了生に向けた「卒業生・修了生の方へ 学長メッセージ」、令和2年度新入生に向けた「新入生へ 学長メッセージ」、「入学式記念講演（兵庫県立美術館館長 養豊氏）」を神戸大学 YouTube チャンネルから動画配信を行いました。

令和元年度の学部卒業生2,677名、大学院修士・博士前期課程修了生1,295名、博士後期課程修了生271名、法科大学院と経営学専門職学位課程修了生138名に、学士、修士、博士及び専門職学位の学位が授与されました。

令和2年度は、学部2,604名、大学院博士前期課程に1,185名、博士後期課程に302名、法科大学院と経営学専門職学位課程に146名、編入・転入生132名の計4,369名が入学し新たな一歩を踏み出しました。

YouTubeチャンネル「神戸大学 Kobe University」
https://www.youtube.com/user/KobeUnivPR

アクセスはこちらから。

SDGs 推進室を設置しました

2月に学内外の組織等と緊密に連携を図り、本学の活動を推進することを目的にSDGs推進室を設置しました。SDGs推進室では、地域社会や産業界とSDGsの理念を共有するオープンな交流とよどみのない成果の社会実装を実現するため、従来の学術分野を横断した新学術領域を開拓して新しい価値創造のための産・学・官プラットフォームの構築を目指しています。



3月23日、久元喜造神戸市長が本学を訪れ、武田廣学長とSDGsに関する意見交換を行い、包括連携協定（平成25年5月締結）を結ぶ神戸大学と神戸市が、神戸未来医療構想など様々な協力関係を通じて、SDGsの達成に向けた取組を連携して進めていくことを確認しました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

※SDGs：持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいる。

「般若団文化奨励賞」を神戸大学 ESS が受賞しました



武田学長（右）・杉村理事（左）と記念撮影するESS 山田副部長（中央）

2019年度から般若団のOB会からの寄附金により、文化系課外活動団体のうち顕彰に値する団体に対し、般若団文化奨励賞を授与することとなり、神戸大学ESSが受賞しました。

般若団文化奨励賞は、本学の課外活動団体であ

る般若団のOBの皆様から、神戸大学基金へのご寄附により、課外活動の文化系公認団体を表彰するために創設されました。

神戸大学ESSは、ディベート、スピーチ、ディスカッション、ドラマ、カンパシーションの5つのセクションに分かれ活動しています。

今回、各セクションにおいて全国大会で上位に入賞するなど、特に顕著な成績を挙げ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められ、3月24日に武田学長から表彰状と記念品が手渡されました。

読者の皆様へアンケートのお願い「スマホ用“うりぼーカレンダー壁紙”プレゼント中！」裏面をご覧ください。

神戸大学広報誌『風』15号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

1.どの記事に関心を持たれましたか 2.その記事についてどのような感想を持たれましたか 3.今後読みたい記事 4.その他何でも感想を

アンケートの回答は神戸大学広報課のメールアドレスにお願いします。

✉ ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp
※ご職業、年齢を書き添えていただくと幸いです。

WEBフォームもありますので
スマホから今すぐアクセス!



日々更新中!



神戸大学基金だより

よろしく
お願いします



新型コロナウイルス感染症対策緊急募金のお願い ～学生・附属病院のために～

新型コロナウイルス感染症の拡大は、歴史に残る大きな影響をわれわれの社会や経済に与えています。読者の皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

神戸大学においても、教育・研究の環境、なにより学生生活自体が大きく変わってしまいましたが、学生・教職員ともども、さまざまな制約の下で頑張っています。

また、地域医療の拠点としての社会的使命を果たすため、本学医学部附属病院では、医療スタッフと病院職員が、厳しい就労環境の中、懸命に医療活動に取り組んでおります。

神戸大学基金では、5月1日から学内教職員ならびに本学卒業生の方を中心に「新型コロナウイルス感染症対策緊急募金」を始めました。すでに、多くの皆様から、学生と附属病院のために、ご寄附と温かいメッセージをお寄せいただいております。心より御礼申し上げます。なお、9月末日まで引き続き受付の予定をしておりますので、皆様からの一層のご支援をお願い申し上げます。

※詳しくは本学のウェブサイトをご覧ください。

※神戸大学基金へのご寄附は、確定申告を行っていただくと税制上の優遇措置を受けることができます。
※神戸大学基金については、ホームページもご参照ください。

神戸大学基金 検索

同窓会・校友会・育友会 アラムナイ

育友会の理事長就任にあたって

伊達 真一

この4月に育友会理事長に就任しました伊達です。よろしくお願いいたします。

神戸大学育友会は、昭和24年7月、当時の大学在学生の保護者の発意により設立され「神戸大学の教育発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を図る」ことを目的とし、学生生活、特に課外教育の発展と福利厚生に貢献することを趣旨として、保護者の皆様にご理解をいただき運営しております。

入学から卒業まで様々な場面において、豊かな人間性を培うための課外活動や学外での活動を援助するなど、実りある学生生活とするための支援にご賛同いただき、ご入学時に入会をお願いしています。

毎年、各地区において定期的に懇談会を開催し、神戸大学の現状と活動状況を報告する等、保護者と大学との連携を図っています。



今後とも保護者の一人として、また時代を担う若者達を見守る立場として、皆様とともに神戸大学の更なる発展に寄与することが出来るよう、邁進する所存であります。保護者の皆様並びにお子様方のご多幸とご健勝、神戸大学の更なる発展を心よりお祈り申し上げます。

※神戸大学育友会は、昭和24年7月、当時の大学在学生の保護者の発意により設立され、学生生活、特に課外教育の発展と福利厚生に貢献することを趣旨として、保護者の皆様のご理解と神戸大学のご協力をいただいで運営しております。

神戸大学育友会 検索